

復興の意気や溢るる
Full of Kumamoto University Spirit

熊本大学

(五高尊歌より)

平成28年(2016年)熊本地震 被害状況と復旧に向けた対応状況

創造する森 挑戦する炎

井上雄彦 記す



平成29年6月17日 (熊本大学九州連合同窓会)



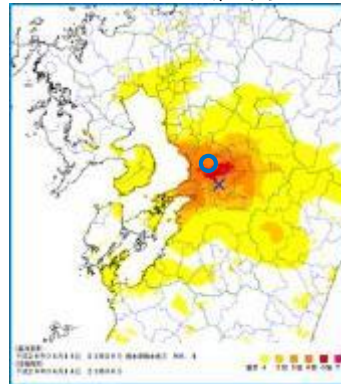
熊本地震の前震と本震

○我が国の観測史上、例のない震度7の連続発生 ※4/14及び4/16「推計震度分布図」：気象庁HPより

【前震】

4/14 (木) 21 : 26
最大震度 7
マグニチュード 6.5

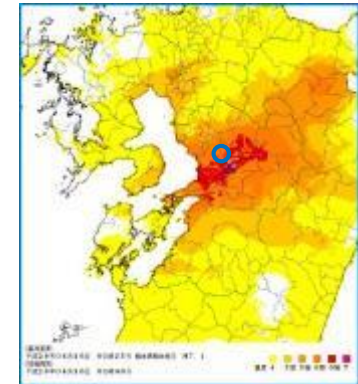
※熊本市中央区 震度 5 強



【本震】

4/16 (土) 1 : 25
最大震度 7
マグニチュード 7.3

※熊本市中央区 震度 6 強



※余震を含めると4,275回の地震が発生 (3/21 気象庁発表)

県内の被害状況※

※3/22 16:30 熊本県危機管理防災課発表

【人的被害】	死者	211人	※熊本地震との関連が認められたものを含む
	重軽傷者	2,672人	
【住宅被害】	全壊	8,664棟	
	半壊	33,379棟	
	一部損壊	144,947棟	
【避難者数等】	避難所	0カ所・0市町村	
	避難者数	0人	※最大855カ所、避難者数183,882人 (4/17 9:00)

※阿蘇地域の交通網の遮断（橋桁やトンネル、道路の崩落）や貴重な観光資源（熊本城や阿蘇神社、水前寺成趣園など）にも大きなダメージ

熊本地震発生時の熊本大学の概要

黒髪キャンパス



本荘キャンパス



キャンパス	<p><u>熊本市</u></p> <p>黒髪 (文学部、教育学部、法学部、理学部、工学部、社会文化科学研究科、法曹養成研究科、自然科学研究科、国際先端科学技術研究機構、本部、特別支援学校 等)</p> <p>本荘 (医学部(医学科)、医学教育部、附属病院、国際先端医学研究機構、発生医学研究所、エイズ学研究センター、生命資源研究・支援センター 等)</p> <p>九品寺 (医学部(保健学科)、保健学教育部 等)</p> <p>大江 (薬学部、薬学教育部)</p> <p>京町 (附属小学校、附属中学校 等)</p> <p>城東 (附属幼稚園)</p> <p><u>その他</u></p> <p>益城 (地域共同ラボラトリー)</p> <p>合津 (合津マリンステーション)</p>
	<p>学生数※ 10,448人 (日本人学生：9,952人、留学生：496人) 附属学校：1,340人</p>
教職員数※	5,814人 (非常勤等含む)

※学生数及び教職員数については平成28年5月1日現在

本学の被災状況(概要)

熊本大学災害対策本部の設置

- 4/14 (木) 前震 (21:26) 直後、財務・施設担当理事を中心に参集可能な職員が大学の被害等を確認 (23:10文部科学省へ第一報)
- 4/15 (金) 学長を本部長とする「災害対策本部」を設置
被害に関する情報収集及び初期対応等を開始 (5/9まで毎日開催)
- 5月の連休明けから週2回、6月からは週1回、9月からは月1回の開催
- 平成29年4月17日の第41回の会議をもって解散とし、関連会議にて対応

本学の被害状況

【人的被害】 死者	0人 (4/27に全学生、4/22に全教職員確認終了)
重傷者	1人 (学生)
軽傷者	107人 (学生96人 (うち留学生11人)、教職員11人)

【設備関係】 設備の被害復旧経費 **約84億円**

【施設関係】 立入禁止建物 **5棟** (国指定重要文化財3棟 (五高記念館、化学実験場、工学部研究資料館)、工学部1号館、外来臨床研究棟)

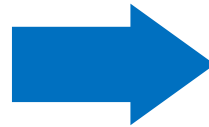
被害額 (概算) **約110億円**

被災後から授業再開まで

○被災による教育への影響を最小限にとどめるため、速やかな復旧作業に着手



震災直後



復旧後

○ 5/9 (月) 授業再開 (履修登録期限を4/21から5/13に延期)



授業再開 (E棟教室 5月11日)



賑わいが戻ったランチタイム
(大学生協 5月12日)

【授業料免除】平成28年度

前期分	人数 <u>417名</u>	金額 <u>62,257,990円</u>	前期・後期 計 <u>87,440,740円</u>
後期分	人数 <u>123名</u>	金額 <u>25,182,750円</u>	

【奨学金】

日本学生支援機構（JASSO）

支援金	（一時給付金 10万円、返還不要）	<u>164名</u>
緊急採用奨学金	（第一種・無利子、貸与型、年度更新）	<u>6名</u>
応急採用奨学金	（第二種・有利子、貸与型、修業年限まで）	<u>6名</u>

その他、企業、自治体による奨学金を随時学生に周知

熊大復興の意気や溢るる奨学金

		一次募集	二次募集	計	金額
緊急支援一時金	（一時金10万円、返還不要）	82名	81名	<u>163名</u>	<u>16,230,000円</u>
緊急支援奨学金	（月額10万円、返還不要）	62名	3名	<u>65名</u>	<u>77,196,000円</u>
総額					<u>93,426,000円</u>

熊本地震により卒業・修了時期に影響等のあった学生に対する支援金（平成29年3月31日現在）

（一時給付金：返還不要）	給付者数： <u>33名</u>	<u>2,693,900円</u>
--------------	------------------	-------------------

設備に関する被害・復旧状況

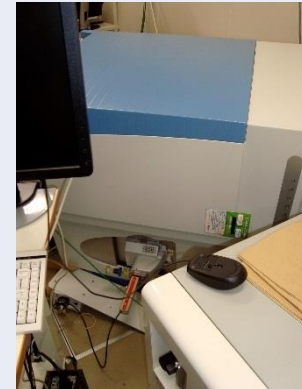
主要大型研究設備等に大きな被害。その他設備も転倒や落下による被害多数。
平成28年度中に修理可能な設備は修理、修理不可の設備は購入。



セルアナライザー本体が作業台から落ちて床置部分のタンク類の上に落下（修理不能）



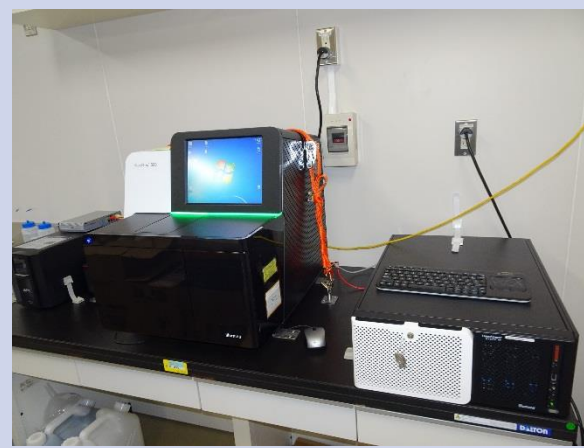
デスクトップ型次世代シーケンサーとそのサーバーが実験台から落下



質量分析計が床に落下（修理不能）



壊れたセルアナライザーの後継機種を購入し、耐震固定



次世代シーケンサーとサーバーを修理し、実験台に固定



質量分析計を購入し、作業台に固定

※セルアナライザーとは、細胞の分析をする実験装置。
次世代シーケンサーとは、遺伝子の塩基配列を高速に読み出せる装置

施設に関する被害・復旧状況①

【黒髪キャンパス】

各建物にひび割れや外壁タイル等の落下、水漏れによる二次被害も発生。

特に、国指定重要文化財（五高記念館、化学実験場、工学部研究資料館）は、煙突の倒壊、壁のひび割れや落下、屋根瓦の損傷や落下など甚大な被害。（立入禁止）

また、工学部1号館は、柱や壁梁のひび割れなど建物構造部に大きな被害。



五高記念館煙突の倒壊



五高記念館北側壁の亀裂



工学部研究資料館の東側壁の亀裂



五高記念館の応急復旧（煙突の撤去）



工学部1号館 北側の亀裂



工学部研究棟I 天井からの水漏れ



工学部1号館改築のため設置された仮校舎

施設に関する被害・復旧状況②

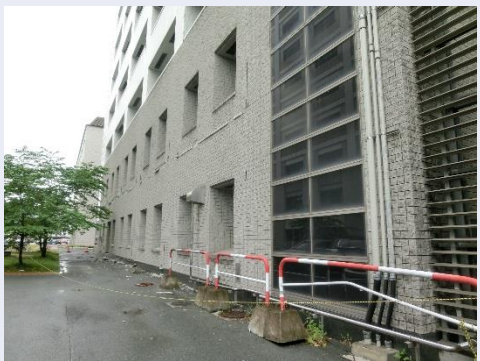
【本荘キャンパス】

各建物にひび割れや外壁タイル等の落下、水漏れなど多数の被害。
特に、本荘中キャンパスの施設は建物外壁タイルの崩落、地盤の沈下やひび割れなど甚大な被害。

外来臨床研究棟（東側）は、柱、壁のせん断ひび割れなど建物構造部に大きな被害。



建物内部の亀裂



建物外壁タイルの崩落



外壁タイル崩落の可能性がある部分は立入禁止措置



復旧作業の足場で囲われた建物



外来臨床研究棟の柱



外来臨床研究棟の壁



管理棟を取り壊し後に、取り壊しを開始する外来臨床研究棟、立入禁止措置中

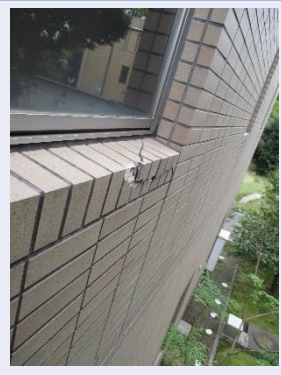
施設に関する被害・復旧状況③

【大江キャンパス】

各建物の内外部にひび割れなど多数の被害が発生。外構のブロック塀や石垣等の破損、南地区の宿舎にもひび割れ等の被害。



外壁の剥がれ



外壁の亀裂



復旧作業の足場で囲われた建物

【京町キャンパス】

各建物の内外部にひび割れや天井ボード落下など多数の被害。附属小学校管理棟は柱等のひび割れなど建物構造部に大きな被害。



柱のひび割れ



附属小学校廊下の天井崩落



復旧後の教室の天井



附属小学校の仮校舎

施設に関する被害・復旧状況④

【城東町キャンパス】

各建物の内外部にひび割れなどの被害が発生。塀の破損や傾きなどの被害。



塀の破損



仮復旧の塀

【宇留毛キャンパス】

各建物の内外部にひび割れや水漏れなどの被害。擁壁等に法面ひび割れや地割れが発生したため、近隣の国際交流会館・職員宿舎の入居者を退去。



地割れ



擁壁法面のひび割れ



復旧後の擁壁

【その他キャンパス】（渡鹿、益城、渡鹿2、東町）

各建物の内外部にひび割れや塀の倒壊などの被害。

地域復興に熊本大学ができること

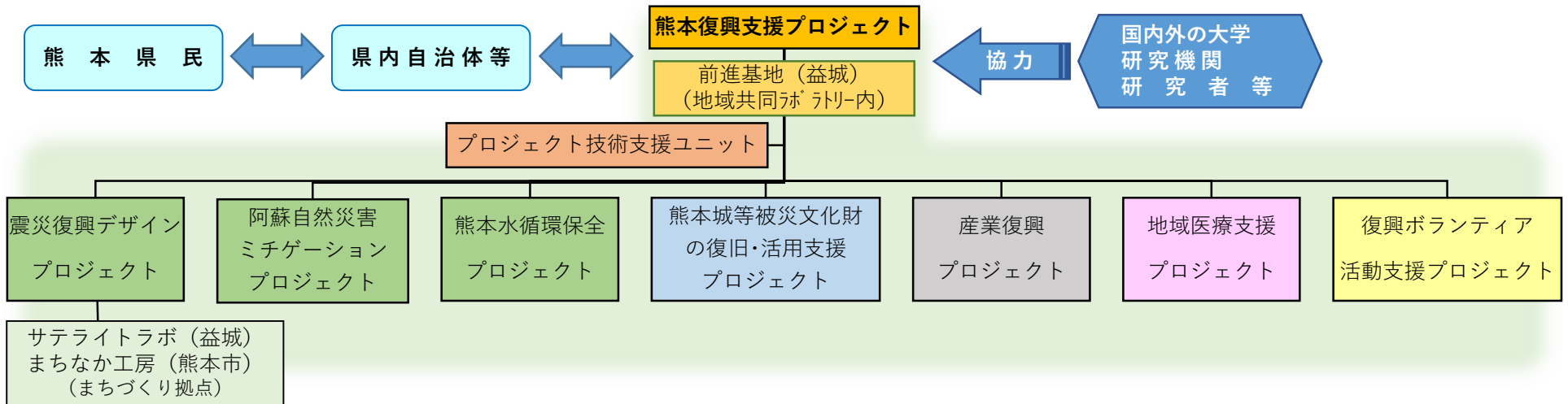
【熊本復興支援プロジェクトの設置と始動】

- 熊本大学は地元の国立大学として、熊本に関する課題研究に取り組んできた。
- 震災後、本学の多くの研究者からこれまでの研究成果を地域復興に活かさないかと、様々な提案がなされた。
- 研究者の熊本復興への想いと地域とともに発展を遂げてきた本学の使命として、学長を総括リーダーとする「熊本復興支援プロジェクト」を設置する。
- 自治体等の地域の声をもとに研究者の発意による復興プロジェクトを再編成し、「熊本復興支援プロジェクト」の下に復興プロジェクトチームを結成する。

『熊本復興支援プロジェクト』 平成28年6月14日：設置

- 総括リーダー：学長 原田 信志
- 副総括リーダー：理事・副学長（研究・社会連携担当） 松本 泰道
学長特別補佐 先端科学研究部・教授 柿本 竜治

ホームページ：http://www.kumamoto-u.ac.jp/
連絡先：fukko-sien@jim.kumamoto-u.ac.jp
096-344-2111（代）



震災復興デザインプロジェクト

リーダー：柿本 竜治（大学院先端科学研究部 エネルギー科学部門社会基盤計画分野）

メンバー：松田(泰)教授，溝上教授，小林教授，星野准教授，田中(智)准教授，円山准教授

主な連携機関：国土交通省、熊本県、益城町等

○特徴：

被災地での都市計画やまちづくりは、通常の何倍もの速度で進められる。短期間に、行政と住民の間で地域の将来像が共有されないと、復興の足かせになる。熊本大学は、被災地にサテライトラボなどを設け、復興の現場で熊本大学の専門家が住民と対話しながら、地域の将来像を描く支援を行う。



益城町に開設した「まじきラボ」

活動内容

1. 益城町復興計画策定支援
2. 益城町住民意見交換会サポート
3. まじきラボの設置
4. 益城町仮設住宅聞き取り調査
5. 熊本地震総合調査

